



TITLE:

## VIII.ナショナルバイオリソースプロジェクト(ニホンザル)の活動

AUTHOR(S):

---

CITATION:

VIII.ナショナルバイオリソースプロジェクト(ニホンザル)の活動. 霊長類研究所年報 2009, 39: 101-101

ISSUE DATE:

2009-09-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/166707>

RIGHT:

## VIII. ナショナルバイオリソースプロ ジェクト（ニホンザル）の活動

を順次増やしていく予定である。

（文責：景山節）

平成 19 年度より、5 年間の計画で第 2 期ナショナルバイオリソースプロジェクト(NBRP)が開始された。NBRP は実験動植物（マウス、シロイヌナズナ等）や、ES 細胞などの幹細胞、各種生物の遺伝子材料等のバイオリソースのうち、国が戦略的に整備をすすめるもので、現在 23 プロジェクトが中核的拠点整備プログラムとして採択されている。このなかの一つに「ニホンザル」プロジェクトがあり、自然科学研究機構生理学研究所が中核機関、霊長類研究所が分担機関となって推進している。本プロジェクトは、人類の福祉の向上に貢献する医学・生命科学研究に必要なニホンザルの繁殖・供給体制の整備を目指し、全国研究者への本格的な供給体制を確立することを目標としている。

霊長類研究所では善師野地区の第 2 キャンパスで展開している大型プロジェクト「リサーチリソースステーション（RRS）」で環境共存型大型放飼場の設置や管理棟、排水浄化設備などのキャンパスとしての基盤整備がほぼ終了した。第 2 キャンパスでは環境との共存を重視し、放飼場も含めて敷地内の植生の保全と、排水の処理に万全を期している。とくに污水处理は BOD で 5 ppm としたあと放飼場への還元散布としてキャンパス外にはださないようなシステムでおこなっている。大型放飼場はサルの野生での生息状態を再現するものであり、今後の多様な霊長類研究の推進の核となるものである。第 2 キャンパスの整備により NBRP での全国へのニホンザル供給を実現するための繁殖・育成を進めることが可能となった。さらに年次計画で大型グループケージを 1 棟づつ増設しており、21 年度内には 3 棟の大型グループケージが揃う予定である。放飼場 3 式、育成舎 1 棟がすでに建設されていることから、グループケージのすべてが完成した段階で、第 2 キャンパスでは総数で 350 頭のニホンザルの飼育が可能となる。

NBRP として飼育されるニホンザル母群の導入と繁殖は順調に経緯し、20 年度末で母群総数 169 頭で繁殖数は 44 頭である。平成 20 年度は、NBRP 全体で約 50 頭のニホンザルの供給がおこなわれた。霊長類研究所は初めて供給をおこなうこととなり、16 頭を担当した。NBRP「ニホンザル」では最終的に毎年全国の研究機関に 200 頭の供給をおこなっていくことを目標としており、第 2 期終了時の平成 23 年度には達成されることを目指している。このときには霊長類研究所は 100 頭の供給を担当することになっている。このため母群の整備と繁殖をさらに進めていくとともに、21 年度より供給数